

# NOW IS.

宮城は現在も  
いま  
現実に  
立ち向かう。

2018.12.11

Vol.  
32  
December, 2018

ナウイズ  
毎月11日発行

畠山美由紀

in 気仙沼市



道の駅大谷海岸にて「これは今も食卓に欠かさないの!」この魚、知らなかった!と買い物が止まらない島山さん。

「わあ、懐かしい!」。気仙沼の旅は、シンガーソングライター島山美由紀さんの歓声から始まりました。「大谷海岸に来るのは、子どもの時、夏休みの一大イベントだったんです。震災前は松林があつて、ハマナスの花も咲いていて、思い出すなあ」。島山さんは気仙沼市の出身。上京するまでの18年、気仙沼の海を見て育ちました。島山さんの実家は山側にあり、津波の被害は免れたものの、震災後1週間も連絡が取れなかったと言います。「震災後、初めて気仙沼に行けたのは4月のことでした。慣れた街の面影がどこにもなくて、どこまでもガレキの山が続いていました。あの時は実感が

で、少しでも早く始めないと、と。残った骨組みにトタンを打ち付けて、レジもなかったので手計算で、販売を始めました。「4月と言えば、まだ打ち上げられた船があちこちに残っていたところですよ」と島山さん。従業員の努力と街の人の応援のおかげで、震災から2年後の4月に道の駅は今の建物で

再オープンしました。大谷海岸の海水浴場は2021年の再開に向けて、現在整備が進められています。海岸の整備については、住民が、こういう海岸にしたい!という青写真を提案して実現したんです。震災前と同じ規模の砂浜を残せるようになったので、前のようにたくさんの方が来てくれたらしいですね」と小野寺さん。深くうなずきながら話を聞く島山さん。「かつてのままの景色はもう見られないかもしれないけど、ふるさとが残るのはうれしいな」。



道の駅大谷海岸の直売所には、売店のほか、地場産品が味わえる食堂もあります。



「シャークス」にてラメカラーのサメ革製品も。サメ革はなめしに時間がかかり、特殊な技術が必要なため、希少価値が高いそう。

「かつてのままの景色はもう見られないかもしれないけど、ふるさとが残るのはうれしいな」。

思い出の喫茶店も新たなスポットも。次に訪れたのは、島山さんの原点ともいえるジャズ喫茶「ヴァンガード」。グラントピアノとこだわりの音響装置が存在感を示す、昔ながらのレトロな喫茶店です。「この近くの人は、みんな通った記憶があるんじゃないかな。高校生の時も、ちょっと背伸びした気分ですって、ナポリタンを食べながら音楽を聴いていました。高校の先生も常連で、マスターと私の噂をして

いたみたい。すごく目にかけてくださった、上京してからも何かライブをさせていただきました」。1967年にオープンしたヴァンガードは、津波が天井まで入ったものの、店主と常連客が力を合わせて修理して再開。初代のマスターは昨年他界してしまいましたが、今は常連客だった今川富保さん、小松和雄さんら数名が看板を守っています。「場所ひとつとっても、いろいろなストーリーがあるんですよ」と島山さん。「ここに通っていた高校時代は、早く東京に出たいとはかり思っていました。でもやっぱり、歌をつくる時に思い出されるのは、気仙沼の景色なんです。今は、帰ってくるために、ここを出たのかなと思っています」。

移転前のシャークスでした。こんなにおしゃれなショップがあるんだ!とびっくりして、それからは長く通っています」と島山さん。昔からのものも、新しいものも、ここには自慢のものがたくさんあるんです。私の思い出も、復興に向けて新しく歩んでいる人や景色も、どちらもかけがえのないもの。大切にしていきたいし、それぞれの魅力をたくさん発信していきたいな、と思っています」。

**PROFILE**  
島山 美由紀  
はたけやま みゆき  
シンガーソングライター。気仙沼市出身。みたと気仙沼大使、みやぎ絆大使。1991年に上京して音楽活動を続け、2001年にソロデビュー。東日本大震災後に自身の作詞作曲による「わが美しき故郷よ」を発表、大きな反響を呼ぶ。復興支援ソング「花は咲く」にも参加。



沼田佐和子



「シャークス」は気仙沼内湾地区に完成した「迎(ムカエル)」にあります。店舗をシェアしている「カフェRST」メンズセレクトショップ「Lander Blue」のスタッフと一緒に。

## シンガーソングライター 島山美由紀さんと かけがえのない故郷へ。

復活を遂げた直売所と 整備が進む海水浴場。

# 歌いながら思い出すのは 懐かしい気仙沼の風景。



「ヴァンガード」にて、現マスター今川富保さん(左)と、小松和雄さん(右)。小松さんは現役のジャズドラマー。

# 気仙沼DAY OUT

気仙沼で  
休日を  
KESENUMA



**大谷海岸**  
遠浅で静かな波が打ち寄せる砂浜。海水浴場は環境省の「快水浴場百選」にも選ばれ、にぎわっていました。震災の被害で砂浜の多くが失われてしまいましたが、2018年1月に国道との兼用堤とする工事が着工し、復興・再生に向けた整備が進められています。2021年度には海水浴場が再開される予定です。



**道の駅 大谷海岸**  
震災の津波で甚大な被害を受けましたが、震災から1カ月後には農林水産物直売センターを仮復旧。2013年4月にリニューアルし、朝水揚げされた新鮮な魚介類や海産物、朝採り野菜、加工食品、おみやげなど豊富な品ぞろえで営業中。食堂では、ふかひれラーメンやふかひれソフトが人気です。



**ヴァンガード**  
1967年創業の昭和の佇まいが残り、多くの地元出身のミュージシャンに影響を与えてきた、文化の発信源の老舗喫茶店。震災に負けず、ジャズの灯をともし続けています。サイホン式コーヒーは、1杯260円。ジャズを聴きながらコーヒーを味わいに訪れてください。



**迎(ムカエル)**  
旅客船発着施設跡地に、新たに観光集客施設が2018年11月15日にグランドオープン。『迎(ムカエル)』は、まちづくり会社「気仙沼地域開発」が、内湾地区のにぎわいを創出する拠点として整備を進める施設のひとつ。来年には、飲食店を中心とするストリートエリアとマーケットエリアの2施設のオープンを予定しており、現在整備が進められています。

**気仙沼大島大橋** (愛称: 鶴亀大橋)  
2019年春に開通予定です。

**震災遺構** (気仙沼向洋高校旧校舎等)

**震災遺構・伝承館** (気仙沼向洋高校旧校舎等)  
2019年3月末に開館を予定しています。

**気仙沼大島大橋**

**龍の松**

**潮吹岩**

**道の駅大谷海岸**

**大谷海岸**

**安波山**

**男山本店**

**角屋**

**内湾ムカエル**

**気仙沼お魚いば**

**K-PORT**

**気仙沼「海の市」/シャ-ミュージアム**

**気仙沼フカヒレ丼**  
気仙沼市はフカヒレ生産日本一。市内各所で、高級食材のフカヒレをたっぷり使ったフカヒレ丼が食べられます。

**カツオの水揚げ**  
震災の津波で甚大な被害を受けた気仙沼漁港ですが、震災を乗り越えてカツオの水揚げは22年連続日本一です。

**食べる**

**買える**

**リアス-7美術館**

全国有数の水産都市である気仙沼市。日本トップレベルの水揚げを誇り、新鮮な海産物はもちろん、唐桑半島の巨釜半造や岩井崎の潮吹き岩、海に浮かぶ緑の真珠と謳われる大島など、景勝地も人気です。

## 広域地図



取材  
こぼれ話  
**VOICE**  
FROM  
STAFF

café RST  
Lander Blue  
シャークス

鳥山さんと訪れた「シャークス」は、商業施設「迎(ムカエル)」の1階にあります。「café RST」とメンズセレクトショップ「Lander Blue」との3店舗でワンフロアを共用しています。もともと「シャークス」と「Lander Blue」は同じ仮設商店街にありました。……「迎」への本設にあたり、初めてカフェを営む「café RST」と知り合い、協力することになったんだそう。それぞれの想いとこだわりが詰まったお店はとても居心地のいい空間でした。



宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,564人 | 行方不明者数 1,222人 | 2018年10月31日現在宮城県危機対策課調べ

# Support Power

## PROFILE

気仙沼市 建設部 都市計画課 都市施設係  
まつした あすか  
松下 飛鳥 さん  
鹿児島市より気仙沼市に派遣

## the 応援職員

NOW IS.

気仙沼

Kesennuma



友人が来ると必ず連れて行くと言う安波山。ここからの眺望は、気仙沼を一望できるのでお気に入り。



歴代の鹿児島市の派遣職員が担当してきた「朝日町赤岩港線」の様子。



多くの人に復興の状況を見に来てもらいたい

「鹿児島市の派遣職員は今年度から自薦が可能となり、真っ先に応募しました」と話す松下さんは、2018年4月、鹿児島市から気仙沼市に土木技師として派遣されました。昨年度、気仙沼市に派遣されていた職員と仲が良く、度々復興の状況を聞いていて、自分も役に立ちたいと思っていました。その中で、自薦とはいえ、経験豊富な職員が優先だろうと思っていましたし、女性の派遣職員はこれまでいませんでした。なので、内定をもらった時は驚きました。うれしそうに話すと、松下さんの顔が引き締まります。「市からお役に立ってきなさい」と言われ、復興事業全体の一部分ではありますが、自分の役割をしっかりと全うしたいと思います。

所属し、朝日町赤岩港線という新しい道路と、南気仙沼復興市民広場の2つの現場を担当しています。「鹿児島市では、一人で対応することが多かったのですが、ここではたくさんの人と関わるので、最初は戸惑いました。鹿児島市では道路維持課に所属し、桜島の灰をスライパー(路面清掃車)で回収する指示など、降灰対応がメインでした。工事が発注できても、二陸沿岸道路の工事や防潮堤の工事なども同時に行われているので、関係機関と調整会議が必要で、本当に多くの人と関わり、そして支えていただながら業務をしています。特に朝日町赤岩港線は橋梁工事が多く、土木の中でも橋梁は特に専門知識が必要なので、やりがいを感じています。」

「被災地の状況は、ここに来て見るのが大切だと思いましたが。復興の規模が実感できません。震災直後の状況から、ここまで復興してきたみなさんの意気込みを感じてもらいたいです。鹿児島に戻っても、たくさんの人を引き連れて訪れたいです。また、鹿児島市は雨がとても多い地域。桜島の火山もありますし、いつ、どこが被災地になるかわかりません。防災・減災に関しても、改めて考えていきたいと思います。」

## info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



### ONE-LINE 気仙沼イルミネーション

震災で光を失った気仙沼市内湾地区を1本のイルミネーションで結びヒカリを灯す催し。7回目となる今回は、内湾地区の商業施設「迎(ムカエル)」のグランドオープンを記念し、12月8日の点灯式には有名アーティストによるライブや海上打ち上げ花火も開催されます。

●日時: 12月8日(土)~1月14日(月) 18:00~22:00  
●場所: 気仙沼市内湾地区を中心に、田中前大通りなど市内各所  
☎070-6486-3108 (ONE-LINE実行委員会事務局)  
●ホームページ <http://kesenuma-christmas.com/>



### 気仙沼の幻想的な冬の光景「気嵐」 フォトジェニックな神秘的景色

「気嵐」は、海面から湯気のような霧が立ち込める現象。寒い冬の朝に、ある一定の条件がそろって発生する気仙沼の冬の風物詩です。昇る朝日と大型漁船のシルエットが「気嵐」に浮かぶ姿は、思わず息をのむほどの幻想的な光景です。冬の気仙沼は、フォトジェニックな神秘的景色とともに、牡蠣やメカジキなどのグルメも楽しめるので、ぜひ訪れてみてください。

## 今月のガイド

ジャズ喫茶 ヴァンガード  
マスター  
いまわら とみやす  
今川 富保 さん



鳥山美由紀さんが小さい頃から母に連れられて通っていたという、ジャズ喫茶ヴァンガードは、1967年創業。震災から4カ月後にはお店を再開しますが、一昨年にオーナーが、昨年にはマスターが亡くなり、店は存続の危機に瀕していました。

お店を引き継いだのは、今川さんと小松和雄さん。「再開当初はコーヒーを淹れるだけで、昔からの味を再現したけれど、も現在提供しています。店を引き継ぐことになったことを伺ったとき、成り行きたよと笑いながら言う今川さん。その肩ひじ張らない姿勢が、今も常連客でにぎわっている理由だと感じました。

ジャズとコーヒー、そしてマスターとの会話を楽しみに、ヴァンガードに行ってみてください。

# 気仙沼で何が起ったか、 次の世代に 知らしめるために。



(上)いわゆる「ガレキ」のことを「被災物」と呼んでいる。被災物の展示は、津波の威力を示すものと、日常を伝えるものに分けられる。(左)泥にまみれたぬいぐるみに添えられた、語り掛けるような説明文。(右)写真に添えられた想いが、生々しく当時の様子を伝えてくれる。

想いや物語を取り入れ  
心を直接揺さぶる展示に。

リアス・アーク美術館は1994年の開館。山内さんは開館当初から、気仙沼や東北をテーマにした展示を企画してきました。「コレクションが少なかったため、歴史民俗系の展示で個性を磨こうと考えました。美術はなにもないところからは生まれません。郷土を知ることで、ここで育まれる文化や芸術を浮き彫りにしよう」と、郷土資料を収集するうちに、早い段階で気仙沼エリアの文化形成に津波が大きく影響していることに気づきます。「ここは津波の常襲地域。本吉地区や唐桑地区には、とんでもない津波被害の記録が残っているんです」。30年以内に宮城県沖地震が起きる、しかも被害が拡大する「連動型」の地震が起きる、という研究結果にも触れ、2006年には明治時代の明治三陸大津波をテーマにした企画展を行いました。

「自分としては、明治三陸大津波と同等かそれ以上の災害が明日にでも起きうる、という警鐘のつもりでした。でも、この展示にさっぱり人が入らなかった。納得できませんでしたね。」  
東日本大震災のあと、あちこちで「千年に一度」「未曾有の災害」という言葉が聞かれるようになりました。それは違う、と山内さんは強く否定します。「東日本大震災の前、幸いにも50年近く大きな津波が来ていなかっただけ。『ここには津波は来ない』という迷信や思い込みが、今回の被害を拡大させてしまった。だから、この展示を見に来る方には、私は責任を持って『未曾有は嘘です』と言うようにしています。」  
山内さんは震災のあと、3月16日から現場に入り、調査・収集活動を始めました。自身も自宅を流され、美術館で寝泊まりする身。「11日の夜、燃える気仙沼を見て、もう美術館の再開はないな、と思いました。でも、これはプロとして記録をとらなくて

はならない。その想いで平常心を保っていたのでしょね。気仙沼では、破壊された街がどこまでも続いていました。家だったもの、クルマだったもの、台所用品やぬいぐるみ。そのスケール感、想いを伝えようと撮影した写真は、約3万点、収集した被災物は約250点に及びました。  
その結晶が、現在の常設展です。撮影した写真には、その写真を撮影した時に感じたことや考えたことを記し、被災物には、そのものをテーマにした「物語」を書き添えています。「展示物の説明文に、創作した文章を添えるのは、前例がない取り組みです。だけど、被災した日用品を収集しているときに、そのものが自分になにか語り掛けているような気がしました。人の心を直接揺さぶる展示にしないといけない。思い込みや経済活動を過度に優先した結果、何が起きたのか。しかもこの災害は再び起きる。それを次の世代に知らしめるための展示だと、考えています。」

宮城県沿岸部情報サイト  
行きたいと来てほしいの両方があります。  
**みやぎ海への旅案内**  
宮城県沿岸部を中心とした観光情報や震災関連施設、体験・学習プログラムを紹介している web サイトです。震災について「聴く」「観る」「学ぶ」「体験する」「祈る」などの目的からスポットを検索することができます。  
QRコード  
●みやぎ観光復興支援センター  
☎022-748-7380  
http://miyami.info



PROFILE  
リアス・アーク美術館  
やまうち ひろあき  
**山内 宏泰**さん  
宮城県石巻市生まれ。1994年よりリアス・アーク美術館学芸員。一年に約10回の企画展などを行うかたわら、東日本大震災後は、気仙沼市東日本大震災伝承検討会議委員などを務める。

NOW IS. **32** 月号

発行：2018年12月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)  
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号  
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493  
「復興情報発信プロジェクト NOW IS」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

**宮城県**  
Miyagi Prefectural Government

## INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

**01** 『NOW IS.』をご活用いただける方には  
無料でお届けいたします!

『NOW IS.』は、東日本大震災からの復興に向けて取り組む宮城の「いま」を伝える広報紙で、毎月11日に発行しています。

主に都道府県庁や宮城県立図書館などの公共施設に配布しておりますが、震災の記憶の風化防止や被災地支援にご活用いただける方につきましては、無料でお届けいたします。「イベント等で配布したい」「人の往来が多い〇〇〇(施設名など)に配布用として置きたい」など、具体的な活用と場所を明記の上、下記の問い合わせ先までご相談ください。数に限りがあるため、調整のうえ、ご対応させていただきます。



●県震災復興推進課  
Mail : fukusuif2@pref.miyagi.lg.jp

**02** 移住・定住イベント開催!!!

◆みやぎ県の東北地域って“なじよなとこ祭” in 東京・有楽町  
県北にある7つの市町が、“県北7(セブン)”として集まり、宮城県東北地域の教育環境・お仕事、住まいなどの役立つ情報について紹介します。イベントでは、担当者や参加者同士でお話できるほか、個別の相談にも対応いたします。宮城県出身の方はもちろん、宮城県に興味・関心のある方はぜひお越しください!

日時：平成31年1月13日(日)※2部に分かれています。  
【第1部】13:30~15:30 各市町PRプレゼン&ワークショップ  
【第2部】16:00~18:00 個別移住相談会  
場所：東京交通会館(東京都千代田区有楽町2-10-1)  
【第1部】LEAGUE有楽町(東京交通会館6階)  
【第2部】ふるさと回帰支援センターセミナールーム(東京交通会館8階)

参加自治体：登米市・栗原市・大崎市・色麻町  
加美町・涌谷町・美里町

●NPO法人おおさき地域創造研究会  
☎0229-25-9956



## MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイト  
みやぎ復興情報ポータルサイトは  
コチラから!  
http://www.fukkomiyaagi.jp

宮城の復興情報を発信する、  
「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。  
復興に関するお知らせや復興の進捗状況、  
復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を  
ブログで!

### 今月のブログピックアップ



いわたかれん  
**復興フォト**  
岩田 華伶

仙台市出身の女優。AKB48を卒業し、被災地の「今」を伝えたいと写真の勉強を始める。



これまでの被災地訪問は90回を超える岩田さん。「写真」に思いを込めて、被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは、「東松島市」。震災遺構の旧野蒜駅プラットフォームや東松島市震災復興伝承館を紹介します。

宮城発!  
**元気と食の  
最新情報**

一般社団法人  
**IkiZen**

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。



NOW IS.ゲストの畠山美由紀さんにちなんで、今回は特別号でお届けします。2011年5月、畠山さんは母校の中学校で自身のユニットPort of Notesとして、慰問ライブを行いました。今回はその時のエピソードをお届けします。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 **NOW IS.メールマガジン** で検索して登録!

宮城の  
「今」を発信  
**ミヤテレ**  
震災の伝承や  
防災・減災に取り組む  
活動をご紹介します。

「空からみたミヤギ」  
“復興へ歩む宮城”をインターネットでも発信

ミヤギテレビでは、震災8年目の企画として津波で被害を受けた沿岸部の現状を自社動画ポータルサイト「ミヤテレMoTo」上で動画配信しています。東北大学災害科学国際研究所「みちのく震録伝」の監修のもと、ドローンを使って撮影を行っています。発注から継続してテレビで震災を伝えていますが、地域を越えて情報を届けられるインターネットでも発信したいという思いで、社内の震災復興プロジェクトチームが企画しました。今後も様々な手段を使い「復興へ歩む宮城」を伝えていきます。



2018.12.11

Vol.  
32  
December, 2018

ナウイズ  
毎月11日発行

宮城は現在も  
いま  
現実に  
立ち向かう。

# NOW IS.

前例も常識も気にしない。  
人の命がかかった展示だから。

「まず、あの時何が起こったか、多くの人は知らないと思っています。知らないことは忘れられないし、風化もしない。今必要なことは、あの時なにが起きたのか、なんでこんなことになってしまったのか、知ることなんです」。

リアス・アーク美術館では、2013年4月から、学芸員が収集した記録写真203点と収集した被災物155点などを展示した「東日本大震災の記録と津波の災害史」を常設しています。津波で泥をかぶった日用品、燃えてゆがんだ車。隣に

は、調査活動中に得た情報や気持ちを記した説明文が添えられています。

「学芸員が自分たちで収集したものを展示する常設展は、前例がありません。説明文も、客観的記録を大切にす博物館のセオリーからしたら、あり得ない。でも、その場で起きたことはその場の言葉でしか語れない。これは、人の命を守るための展示です。とにかく一刻も早く資料を集めて公開しないとイケない。その使命感で貫き通しました」。

リアス・アーク美術館  
山内宏泰